

工場にある数 100 台のロボットをモニターできるよう、シスコ社がロボット企業と提携
ジュリー・ボルト(2015 年 10 月 6 日)



シスコ社の新しい CEO チャック・ロビンスは、同社の将来は、あらゆる種類の機械やモノがセンサーやアプリを実装してインターネットに繋がる IoT と呼ばれる大きな新しい潮流に依存している、と確信している。

シスコ社は月曜日、カリフォルニア州サンノゼにある本社での記者会見で、ロボティクス企業ファナック社が”ゼロ・ダウンタイム”と呼んでいるものに対して、ファナックとの大きな新しいパートナーシップを結んだことを発表した。

ファナック社とシスコ社は、特定のロボットに問題が発生しそうかどうか、いつ発生しそうかを予測するために、ファナック社が工場にあるすべてのロボットを監視し、何がそこで起こっているかを確認できる IoT システムを作成した。上手くいけば、サービス技術者はロボットが故障する前に修理ができる。

両社はすでに、約 1,800 台のロボットを含む、ファナック社の顧客である GM 社を巻き込んだ準備試験で評価を行っている。

ファナック社は、この評価により、同社の顧客はすでに 3,800 万ドルの節約が可能になった、と言う。年末までに 2,500 台のロボットにこのシステムを展開する計画である。

「これは間違いなくゲーム・チェンジャーです」と、ロボット・オペレーション・ファナック・アメリカの副社長アンディ・デニーは部屋の中にいる人たちに語った。「考えてみてください。機器が故障する前に、いつ故障するかを予測する設備を」

今回のパートナーシップは、[先週の GE 社とのパートナーシップに続くものだ](#)。GE 社は、シスコ社の IoT 技術を使って、GE 社の 100 カ所の工場と同様のことを行う、と述べた。ロビンズは、IoT は”インターネットの第 1 波よりも大きくなるだろう。そうでなければならぬ。現在[インターネットに]接続されているものと比較して、デバイス接続の数は 30 倍になるだろう”と確信している。